

シャガールのタピスリー展

マルク・シャガールとイヴェット・コキール＝プランス

二つの才能が織りなすシンフォニー

Marc Chagall et Yvette Cauquil-Prince en dialogue sur la tapisserie



《創造》タピスリー(部分) / 1971年 / 個人蔵

2012年12月11日(火)～2013年1月27日(日)

□開館時間 午前10時～午後6時 / 毎週金曜日は午後7時まで (入館は閉館の30分前まで)
□休館日 12月17日(月)、25日(火)、29日(土)～1月3日(木)、7日(月)、15日(火)、21日(月)
□入館料 一般300円(240円)、小中学生100円(80円)
()内は10名以上の団体料金 60歳以上および障がい者の方(付添い1名を含む)は無料
毎週土曜日は小中学生無料

□主催 渋谷区立松濤美術館
□協力 AOKIホールディングス / JAPAN AIRLINES
□特別協力 メレット・メイヤー □企画協力 株式会社キュレイトーズ

□記念講演会

1月12日(土)午後2時から
荒屋鋪透氏(ポーラ美術館館長)
「シャガールと旅する」

□記念ギャラリートーク

12月24日(祝・月)午後2時から
石井美恵氏(染織修復家)
「シャガールのタピスリーの技法について」

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
<http://www.shoto-museum.jp>

20世紀を代表する巨匠マルク・シャガール(1887-1985年)。シャガールは、一枚の絵画を完成させるために、数十枚のスケッチやドローイングを残していますが、それ以外にも、コラージュやタピスリー、テキスタイル、ステンドグラス、陶器などといった様々な手法を用いた作品を残しています。それらの手法から得られた色彩や構図は、そのまま自身の絵画世界へと還元され、より魅力的で豊潤な世界を生み出すようになったのです。

そこで本展では、シャガールの世界観を形成した「サーカス」や「花束と人物」、「色の分割」、「おんどりと恋人たち」「地中海の青」などのいくつかのテーマに沿って、シャガールが試みた様々な手法の中から、特にタピスリーを中心に、油彩や版画を織り交ぜながら、そこに表現された世界を紹介します。

このタピスリーを制作したのは、シャガールが最も信頼したタピスリー作家のイヴェット・コキール=フランス(1928-2005年)です。イヴェットが紡ぎだしたタピスリーは、シャガールの絵画に表れている本質を失うことなく、色彩やリズム、大胆な構図がそのままうつしとられ、時にはシャガールによる絵画以上に、「シャガール」そのものを体現しているといえます。このことはシャガール自身が認めていることであり、二人のアーティストが試みた新たな表現世界の成果でもあります。

このタピスリーを中心とした本展では、シャガールとイヴェットという二人が織りなす素晴らしい表現の世界を、私たち自身が体感する大変貴重な機会となり、新たなシャガールの魅力の発見にもつながることでしょう。



マルク・シャガール(右)とイヴェット・コキール=フランス

□記念講演会

1月12日(土)午後2時から
荒屋鋪透氏(ポーラ美術館館長)
「シャガールと旅する」

□記念ギャラリートーク

12月24日(祝・月)午後2時から
石井美恵氏(染織修復家)
「シャガールのタピスリーの技法について」

□担当学芸員によるギャラリートーク

12月21日(金)、1月11日(金)、18日(金)
それぞれ午後2時から

□美術映画会

1月13日(日)午後2時から
「ピカソ 若き日の天才画家」ほか



《赤い雄鶏》タピスリー/1991年/個人蔵



参考:タピスリー《平和》のための下絵(カルトン)



《「雄鶏と恋人達」のためのエスキース》油彩・キャンバス
1950年/AOKIホールディングス 蔵



《「トゥネル河岸」のためのエスキース》油彩・キャンバス
1952-53年/AOKIホールディングス 蔵



《青と黄色の横顔》タピスリー/1973年/個人蔵



渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL.03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩 15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5分
<http://www.shoto-museum.jp>